

京都国立博物館

だより

二〇一六年

四・五・六月号

KYOTO NATIONAL MUSEUM

2016 April to June vol.190

特別展覧会

臨濟禪師1150年

白隠禪師250年遠諱記念

禪—心をかたちに—

特集陳列

徳川家康没後四百年記念

徳川將軍家と京都の寺社

—知恩院を中心に—



特別展覧会
臨濟禪師1150年
白隠禪師250年遠諱記念
禅——心をかたちに——

平成28年4月12日(火)～5月22日(日)
〔平成知新館〕

歴史の教科書などでもおなじみの「禅宗」は、いまからおよそ一五〇〇年まえ、菩提達磨によってインドから中国に伝えられたといわれ、わが国へは鎌倉時代にもたらされました。武家のみならず、天皇家や公家、さらには民衆にまで広く流布し、日本の社会と文化にじつに大きな影響を与え、最近では欧米でも徐々に人気を博しています。

その一派である臨濟宗、江戸時代に伝わった黄檗宗は、中国の臨濟義玄(？～八六六)という禅僧が源流に位置しています。今年、臨濟義玄の没後一一五〇年、さらに日本における臨濟宗中興の祖である白隠慧鶴(一六八六～一七六八)の没後二五〇年の遠諱法要が行われます。これを記念して、「禅——心をかたちに——」と題する特別展覧会を開催いたします。

禅宗にあつては、たとえば「以心伝心」や「不立文字」が語るように、師から弟子へ教えを伝えるのに言葉や文字を必要とせず、心から心へと連綿と受け継がれてきました。こうした祖師や先師たちの教え「心」を「かたち」に美術にまで昇華した禅の奥深さ、あるいは禅宗が中国で興ってから、日本にどのように伝わり、国内でいかにして広まり、どのような影響を及ぼしたのかをより立体的に紹介する試みです。

一——禅宗の成立

歴代祖師たちの姿や言行をあらわした作品をつうじ、インドから伝えられた禅が中国において、禅宗として成立するまでの流れをたどりま。

二——臨濟禅の導入と展開

現在、臨濟宗と黄檗宗には、十五の本山があります。ここでは、各派の開祖ゆかりの作品をとおして、日本へともたらされた禅宗の歴史をご紹介します。

三——戦国武将と近世の高僧

時代とともに、次第に広まりをみせた禅宗の様相を、戦国武将と禅僧の肖像画、さらには近世の代表的な禅僧の遺品を中心に通覧します。

四——禅の仏たち

言葉にできない、まさしく「心をかたち」にした禅宗寺院特有の仏像、仏画や経典をとおして、禅宗における信仰の姿をご覧ください。

五——禅文化のひろがり

展覧会の締めくくりとして、喫茶をはじめ、禅宗がわが国の文化に与えた影響の大きさを、これらの所産である書画や工芸品の紹介をつうじ、体感していただきます。

会期中の展示替えをふくめると、約二二六件の作品が展示され、そのうち国宝は十九件、重要文化財は一〇三件という、質量ともにかつてない規模の展覧会となります。一度は耳にしたこと



重要文化財 臨濟義玄像 一休宗純賛
伝曾我蛇足筆 京都・真珠庵(4/12～5/1 展示)



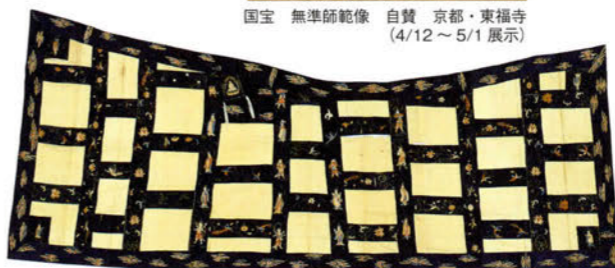
国宝 無準師範像 自賛 京都・東福寺
(4/12～5/1 展示)



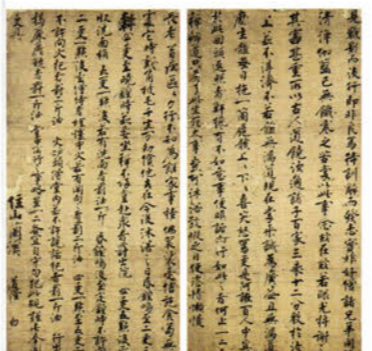
重要文化財 夢窓疎石像 自賛
無等周位筆 部分 京都・妙智院
(5/3～5/22 展示)



国宝 宗峰妙超像 自賛 部分
京都・大徳寺(4/12～5/1 展示)



重要文化財 九条袈裟 伝断橋妙倫料 無間普門所用 京都・天授庵
(4/26～5/22 展示)



国宝 法語規則 蘭深道隆筆 神奈川・建長寺
(4/12～4/24 展示)



遠磨像 白隠慧鶴筆 大分・萬壽寺
(4/12～5/1 展示)



織田信長像 狩野永徳筆 部分 京都・大徳寺
(4/26～5/22 展示)



十八羅漢像のうち羅怛羅尊者 范道生作 京都・萬福寺



重要文化財 宝冠釈迦如来坐像 院吉・院広・院道作
静岡・方広寺



国宝 深陰小築園 太白真玄等七僧賛
京都・金地院(5/3～5/22 展示)

意外に身近な禅の世界

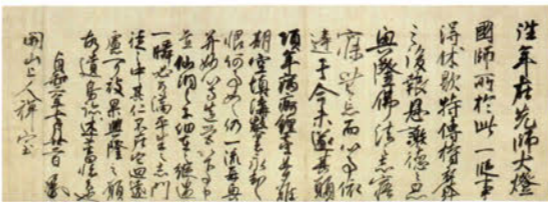
禅というと坐禅修行のイメージが強く、難解で一般の生活とはほど遠い世界のことと思う人が少なくないかもしれません。しかし、茶道や華道、能や狂言、精進料理など日本の文化として根付いているものの中には、禅に由来し、あるいは影響を受けているものが多いことがわかります。作品を通して、禅の世界を見て感じてください。



銀如意 隠元隆琦所用 貴臨通容恵与
京都・萬福寺(4/12～5/1 展示)



国宝 禅院額字并牌字のうち「大円覺」「普門院」 無準師範筆 京都・東福寺(「大円覺」: 4/12～5/1 展示、「普門院」: 5/3～5/22 展示)



重要文化財 花園天皇宸翰置文 京都・妙心寺(4/12～5/1 展示)

● 関連イベント

- ① 四頭茶会「禅院の茶礼」
5月3日(火・祝) 午後1時30分～3時
会場：平成知新館 講堂(定員180名)
- ② 声明 禅の折り
4月29日(金・祝)・5月8日(日)
両日とも午後1時30分～2時30分
会場：平成知新館 講堂(定員180名)
- ③ 狂言「にせ地蔵」「でんでん虫」
5月16日(日) 午前11時～12時「にせ地蔵」
午後2時～3時「でんでん虫」
会場：平成知新館 講堂(定員180名)
- ④ 坐禅会(イヌ坐禅+講話)
4月17日(日)・4月21日(木)・5月1日(日)・5月5日(木・祝)・5月12日(木)・5月19日(木)
日・祝：午前11時～12時、午後2時～3時
平日：午後2時～3時
会場：平成知新館 講堂(定員180名)
- ⑤ ロビー講話
毎週火曜日：午前11時、午後1時、3時
毎週金曜日：午前11時、午後1時、3時、5時
*各回15～20分、定員30～50名
会場：平成知新館 グランドロビー西側

【参加方法】①～④は当日プログラム開始1時間30分前、平成知新館1階グランドロビーにて整理券を配布し、定員になり次第、配布を終了します。⑤は、当日プログラム開始時間に、1階グランドロビー西側にお集まりください。いずれも参加無料(ただし「禅——心をかたち」に観覧券が必要です)。

ミニワークショップ

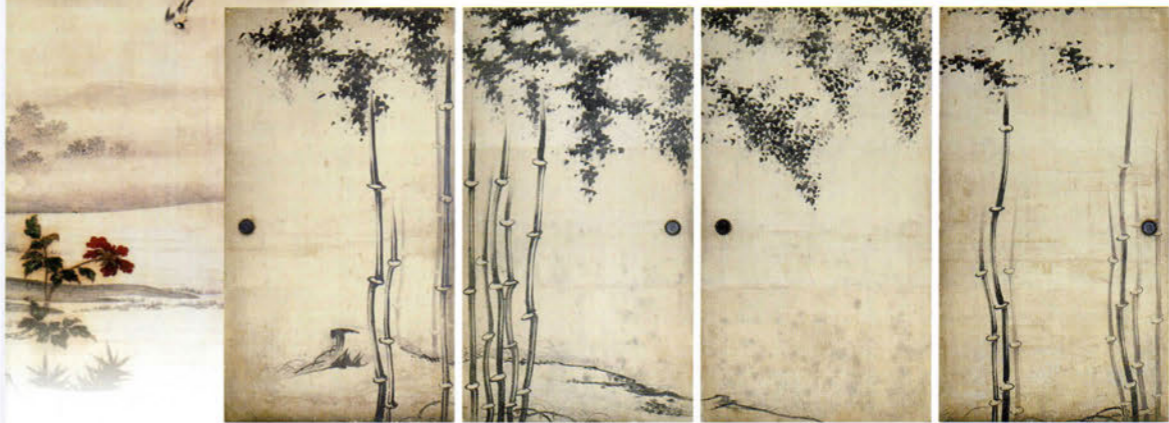
期間中毎日、平成知新館にてミニワークショップを実施いたします。ワーク

【観覧料】

- 一般 1500円(1300円)
- 大学生 1200円(1000円)
- 高校生 900円(700円)
- 中学生以下無料

* ()内の料金は前売りおよび団体20名以上
* 会期中、作品保護のため展示替えを行います。
【主な展示替え】 前期：4月12日～5月1日
後期：5月3日～5月22日

展覧会に関連するイベントも多数、予定しておりますので、一人でも多くの方にご来館いただき、禪の神髄に触れていただきたく思います。
(羽田 聡)



重要文化財 竹園襖 伊藤若冲筆 京都・鹿苑寺



国宝 瑛玻天目 京都・相国寺 (4/12～5/1 展示)



重要文化財 銘雨龍 京都・鹿苑寺 (5/3～5/22 展示)



重要文化財 牡丹彫木漆塗大香合 京都・南禅寺 (4/12～5/1 展示)



国宝 瓢鮎図 大岳周崇等三十一僧賛 如拙筆部分 京都・退蔵院 (4/12～5/1 展示)



重要文化財 龍虎図屏風 狩野山楽筆 京都・妙心寺 (5/3～5/22 展示)



重要文化財 四季花鳥図 狩野元信筆 京都・大仙院 (4/12～5/1 展示)



特集陳列
徳川家康没後四百年記念

徳川將軍家と京都の寺社

— 知恩院を中心に —

平成28年6月14日(火)～7月18日(月・祝)
平成知新館 1F-2・3

戦国の覇者として江戸幕府を開いた徳川家康は、元和二年(一六二六)四月十七日に七十五才でその生涯を閉じました。関西では太閤・豊臣秀吉の人氣が高く、そのライバルであった家康の人氣は今ひとつの感もありますが、徳川將軍家が新しい秩序の支配者として京都の寺社を保護したことは忘れてはならない歴史的な事実です。その意味で、家康は京都が今日の京都たり得た恩人の一人と言えましょう。

本展では意外と知られていない家康と京都の寺社との関係を、知恩院を中心に紹介します。

家康は浄土宗徒であり、知恩院は、慶長八年(一六〇三)に生母・於大の方の永代菩提寺に定められ、以降、將軍家の庇護の元整備が進められ、今日の偉観となりました。

同寺には徳川家康・秀忠坐像が残されており、二〇一四年に重要文化財に指定され話題を集めました。秀忠像は元和六年(一六二〇)に本人が運慶の流れを汲む七条仏師・康猶に命じて作らせただけあって迫真の出来で、家康像も康猶によって作られたものと考えられています。近世肖像彫刻の優品として一躍注目を集めたこの両像が、この京都で揃って寺外で公開されるのは初めてです。

この他、三代將軍家光、五代將軍綱吉生母・桂昌院などによる京都の寺社の復興の歴史をたどり、京都の魅力に迫ります。

(大原嘉豊)



知恩院 御影堂



知恩院 三門

- 3F-1 陶磁
- 【日本と東洋のやきもの／古窯の美】
6月21日(火)～10月2日(日)
- 3F-2 考古
- 【日本出土の考古遺物】
6月21日(火)～10月2日(日)
- 2F-1 絵巻
- 【和歌と物語】
6月14日(火)～7月24日(日)
- 2F-2 仏画
- 【密教図像の美—入魂の一発技—】
6月14日(火)～7月24日(日)
- 2F-3 中世絵画
- 【描かれた動物たち】
6月14日(火)～7月18日(月・祝)
- 2F-4 近世絵画
- 【土佐光起と近世のやまと絵】
6月14日(火)～7月18日(月・祝)
- 2F-5 中国絵画
- 【中国の故事山水図】
6月14日(火)～7月18日(月・祝)
- 1F-1 彫刻
- 【定朝様と慶派の仏像】
6月14日(火)～8月7日(日)
- 【日本の彫刻】
6月14日(火)～10月2日(日)
- 1F-2 特別展示室
- 【特集陳列
徳川將軍家と京都の寺社
— 知恩院を中心に —】
6月14日(火)～7月18日(月・祝)
- 1F-3
- 【特集陳列
徳川將軍家と京都の寺社
— 知恩院を中心に —】
6月14日(火)～7月18日(月・祝)
- 1F-4 染織
- 【武家の服飾】
6月14日(火)～7月24日(日)
- 1F-5 金工
- 【武を飾る—中世の拵—】
6月14日(火)～8月7日(日)
- 1F-6 漆工
- 【根来塗と鎌倉彫】
6月14日(火)～7月24日(日)

ミックスを混ぜるのには、アミノ酸、スタップの「京博ナビゲーター」です。「禅のことば」を通して、禅の心に親しむワークショップを計画中です。お楽しみに！

精進料理 「けんちん汁」の由来

禅寺の食事の基本は、肉や魚を使いません。野菜を中心にいろいろな具材を工夫して作るのが精進料理です。「けんちん汁」はその代表例で、臨濟宗本山の「建長寺」が発祥とされ、「けんちん汁(建長汁)」がなまって「けんちん汁」になったと言われています。



平成知新館
名品ギャラリー
(6月14日より)

特集陳列

丹後の仏教美術

平成28年7月26日(火)～9月11日(日)
平成知新館 1F・2F・3F・4F

※2F展示室は8月28日(日)まで

京丹后市縁城寺の本尊千手観音立像(平安時代・十世紀)を特別公開します。秘仏なのでお寺でも通常拝観できません。今回初の公開ができませんでした。この機会に是非ご観覧ください。あわせて丹後地方の杜寺に伝来した品々を特集して展示します。近年実施された文化財調査によって発見された平安から室町時代の作品が中心です。



重要文化財 千手観音立像 京都・縁城寺

(浅見龍介)

特集陳列

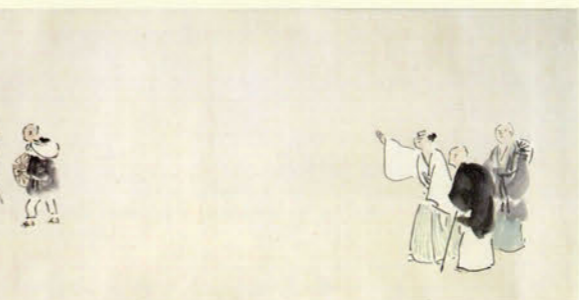
生誕三百年 与謝蕪村

平成28年8月23日(火)～10月2日(日)

平成知新館 2F・3・4

生誕三百年という節目を記念して、画俳両道にわたる与謝蕪村(一七一六～八三)の魅力をご紹介します。

撰津国毛馬村(現在の大阪府都島区)に生まれた蕪村は、二十歳前後で江戸へ出て画俳を学び、俳人・夜半亭宗阿(早野巴人)の門をたたきます。師の没後は東北地方などを放浪したのち、三十五歳を過ぎてからようやく京都に居を定めました。その後丹後や讃岐へと赴いており、腰を落ち着けたのは没するまでの十五年ほどの間です。代表作と呼ばれる絵画作品のほとんどが晩年作であることから分かるように、こ



重要文化財 奥の細道図巻 上巻(冒頭場面) 京都国立博物館



野馬図屏風 与謝蕪村筆 京都国立博物館

楽しんで、つるつる!!

— 教育普及活動のご報告 —

● 琳派ミニワークショップ

二〇一五年の秋に行われた特別展覧会「琳派 京を彩る」期間中の毎日、京博ナビゲーターによるミニワークショップ「琳派デザインに挑戦!」が実施されました。琳派文様のスタンプを使って、扇や団扇をデザインするプログラムです。スタンプを押す前に、「ナビゲーターから「くり返す」や「はみ出す」など、琳派の芸術家たちも使った構図のポイントについて説明を受け、参加者は「どこにどんな形を置いたら素敵に見えるかな?」と、工夫しながらスタンプを押しました。子どもから大人まで15、841名もの方にご参加いただき、たくさん素敵な作品が生まれました。



琳派ミニワークショップ



琳派ミニワークショップ

● 第1回 大人の博物館くらぶ 「古代の鏡 鑄造体験」

「大人が参加できるワークショップがあればいいのに...」というリクエストに応え、大人限定のワークショップを二〇一六年二月十一日に実施しました。研究員の解説を受けて展示室で実物を見た後、低温で熔ける金属を型に流し込み、館蔵の銅鏡と同じ形の複製を制作しました。型をはずして鏡が現れると、参加者からは歓声が上がりました。最後は紙やすりなどで磨いて鏡面を仕上げます。子ども顔負けの盛り上がりを見せた、大人の博物館くらぶでした。



大人の博物館くらぶ



大人の博物館くらぶ

よみもの

時を超える想い—「作品」が伝えるもの—

京都国立博物館研究員 福士雄也

あるお寺のご所蔵作品を調査させていただいた時のこと。その作品は、箱蓋の墨書によればかの尾形光琳(一六五八～一七二六)が描いたものということになっていた。とはいえ、未知の光琳作品がそうそう簡単に世にあらわれるはずはない。正直なところを言えば、二巻からなるその巻子作品を広げる前から、光琳筆の可能性は限りなく低いだらうと思っていた。不遜にもたかを括っていたのである。

そしていよいよ巻緒を解いて広げていくと、果たして光琳の作品とは言い難いものであった。その描写はたしかに光琳風を意識しているようだったが、だからといって一考を要するとか判断に迷うというようなことはなく、手控えの調書に即座に「伝尾形光琳筆」と記した。巻末にたどりつくと、そこには堂々たる「光琳画」の署名と印が据えられている。せめて無落款であれば、いかすかな望みも断たれてしまった。落款がなければ、光琳ではないもののその画風を慕った別人による十八世紀の作品、という言い方で救うこともできるが、これでは完全に「クロ」である。とりあえず寸法など基礎データを取れば、この作品の調査は終了だな、などと考えていたとき、末尾の奥書が目飛び込んできた。そこには、寺の什物であることを記したのち、次のような奉納の経緯が書かれていた。

寛政五年丑四月九日
釋慈光信女 二十二歳終
同年同月日
同一 一瞬童子 當歳
右為追福奉寄附者也
佐々木甚三郎
父 閑空(印)
母 岡月(印)

寛政五年(一七九三)四月九日に二十二歳の若さで亡くなった女性とその子供の冥福を祈り、この巻物を寺に納めたというのである。奉納したのは、この女性の夫と思われる人物とその両親である。子供は「當歳」、つまり数え年一歳で母親と同じ日に亡くなっているから、察するに出産時の出血等何らかの事故によって母子ともに助からなかったのだろう。子供の戒名が「一瞬童子」であるのは、まさに生まれてすぐに亡くなったことを意味している。出産が現代とは比べ物にならないほど大きな危険を伴っていた時代のこととはいえ、家族の悲嘆はいかばかりであったろうか。

二人の冥福を祈り、四年後に夫と両親はこの巻物を寄附した。あるいは佐々木家の家宝であったろうか。入手経緯も時期も分からないが、ともかく彼らにとって大切な品であったのは間違いないだろう。

この二巻に込められた祈りを思うとき、「美術」あるいは「作品」とは何なのかと考える。それは、いわゆる「マージナルな領域」に関する問題でもなければ、「視覚文化」や「装置」「機能」といった類の言葉とも無縁な、より根源的な事柄である。むしろ、宗教遺品を多く扱う研究者であればこの種の作品には日常的に出会うだろう。いや近世絵画にあっても、国宝「楓図」(智積院)は豊臣秀吉が愛児鶴松の菩提を弔うために長谷川等伯に描かせたものであった。だが、決して美術史の俎上に載せられることのない作品だからこそ、かえってその真摯な想いに心打たれるのである。

美術史学の価値基準とは関わりなく、作品にはそれを取り巻く人々の想いが込められている。筆者にはそういう当たり前の認識と、作品に対して払うべき敬意とが欠けていた。それに気付かせてくれたこの作品のことを、決して忘れることはないだろう。

土曜講座

4月23日「禅画と墨蹟—近世の禅林美術—」*

花園大学文学部教授 梶島恒徳氏

4月30日「頂相彫刻の特質」*

京都国立博物館企画室長 浅見龍介

5月7日「仏師の古文書」*

京都国立博物館主任研究員 羽田聡

5月14日「喫茶の広まりと寺院」*

京都国立博物館研究員 降矢哲男

5月21日「画僧の系譜—明兆から雪村まで—」

京都国立博物館上席研究員 山本英男

6月18日「江戸幕府と京都の寺社復興」**

奈良大学文学部教授 河内将芳氏

6月25日「清時代の山水図屏風について」

京都国立博物館研究員 吳孟晋

*…特別展覧会「禅一心をかたち—」関連講座

*…特集陳列「徳川將軍家と京都の寺社」関連講座

※平成知新館 講堂にて、午後1時30分～3時に開催。定員180名（*印以外の講座は200名）、

聴講無料（ただし当日の観覧券等が必要）。

※当日12時より、平成知新館1階グランドロビーにて整理券を配布し、定員になり次第、配布を終了します。

講座・イベント

《「禅一心をかたち—」関連イベント》

○記念講演会「禅における<心>のかたち」

日 時：4月16日（土）午後1時30分～3時

場 所：平成知新館 講堂（地下1階）

講 師：野口善敬氏（花園大学国際禅学研究所所長）

○講演会「禅と水墨画 雪舟と白隠を中心として」

日 時：4月24日（日）午後1時30分～3時

場 所：平成知新館 講堂（地下1階）

講 師：山下裕二氏（明治学院大学教授）、細川晋輔師（臨濟宗妙心寺派龍雲寺住職）

※参加方法：当日12時より、平成知新館1階グランドロビーにて整理券を配布し、定員になり次第、配布を終了します。定員180名。聴講無料（ただし「禅一心をかたち—」観覧券が必要）。

《京都・らくご博物館 春》

日 時：5月13日（金）午後6時00分開場 午後6時30分開演

会 場：平成知新館 講堂（地下1階）

出 演：桂米輝 桂佐ん吉 桂南天 中入 桂歌之助 桂春之輔

入場料：3100円（税込）/キャンパスメンバーズ2500円（税込）（全席指定・特

別展覧会団体割引引換券付）

※チケットご希望の方はお電話、またはWEBよりお申し込みください。

申し込み先：お電話/博物館事業推進係 075-531-7504（月～金の10～12時・13～17時に受付 *祝日は除く）WEB/<http://www.kyohaku.go.jp> らくご博物館【春】申し込み画面

《平成28年度夏期講座のお知らせ》

テーマ：名品を旅する

開講日：7月27日（水）・28日（木）・29日（金）

会 場：平成知新館 講堂 定員：200名 聴講料：3000円

※申込方法：往復はがきに住所・氏名・年齢・職業・電話番号を明記の上、京都国立博物館「夏期講座」

係（〒605-0931 京都市東山区茶屋町527）までお申し込みください。お申込期間は6月1日～10日です。

*5月31日以前の申込は無効となります。申込人数が定員を超えた場合は抽選とさせていただきます。

これからの展覧会

◆特別展覧会 没後150年 坂本龍馬

2016年10月15日（土）～11月27日（日）

国立博物館の展覧会

【東京国立博物館】

特別展「生誕150年 黒田清輝—日本近代絵画の巨匠」

2016年3月23日（水）～5月15日（日）

特別展「黄金のアフガニスタン—守りぬかれたシルクロードの秘宝—」

2016年4月12日（火）～6月19日（日）

【奈良国立博物館】

特別展「国宝 信貴山縁起絵巻 朝護孫子寺と毘沙門天王信仰の至宝」

2016年4月9日（土）～5月22日（日）

【九州国立博物館】

特別展「始皇帝と大兵馬俑」

2016年3月15日（火）～6月12日（日）

◆明治古都館休館のお知らせ◆

京都国立博物館では、埋蔵文化財調査等のため、明治古都館を当分の間休館することになりました。それに伴い、明治古都館休館中は、特別展覧会を平成知新館にて開催いたします。特別展覧会の前後を含めた期間は、展示作業等のため、名品ギャラリーを休止することとなりますが、ご理解とご協力を賜りますようお願い申し上げます。

【4～6月の名品ギャラリーの休止および部分開館の予定】

名品ギャラリー休止期間：3月22日（火）～6月13日（月）

名品ギャラリー部分開館：6月14日（火）～6月19日（日）

2F・1F各展示室（3Fは閉室）

庭園・平成知新館グランドロビーなど部分開館：

3月23日（水）～4月10日（日）

5月24日（火）～6月12日（日）

ご利用案内

【開館時間】9：30～17：00

*特別展覧会期間中は9：30～18：00、金曜日は20：00まで開館

*入館は各閉館の30分前まで

【「禅一心をかたち—」観覧料】

一般 1500円（1300円）

大学生 1200円（1000円）

高校生 900円（700円）

*（ ）内は前売りおよび団体20名以上、中学生以下無料

*名品ギャラリー観覧料

一般 520円（410円）、大学生 260円（210円）、高校生以下および満18歳未満、満70歳以上の方は無料

（ ）内は団体20名以上

【休館日】月曜日（月曜日が祝日の場合は開館し、翌火曜日休館）

アクセス

JR＝京都駅下車、市バスD2のりばより206・208号系統、D1のりばより100号系統にて博物館・三十三間堂下車すぐ
プリンセスラインバス京都駅八条口のりばより京都女子大学前行にて東山七条下車、徒歩1分

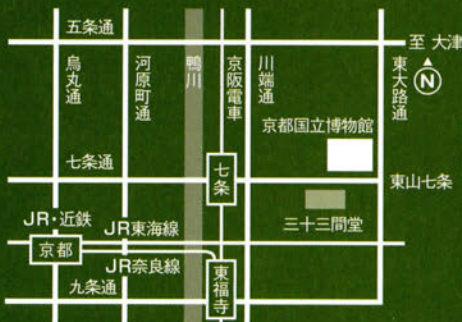
近鉄電車＝丹波橋駅下車、京阪電車丹波橋駅から出町柳方面行にて七条駅下車、東へ徒歩7分

京阪電車＝七条駅下車、東へ徒歩7分

阪急電車＝河原町駅下車、京阪電車祇園四条駅から大阪方面行きて七条駅下車、東へ徒歩7分

駐車場は有料となっております。ご来館の際は、なるべく公共交通機関をご利用ください。

*「博物館だより」を郵送ご希望の方は、返信用封筒（角2封筒は120円、長3封筒は92円切手貼付、宛名明記）を同封して、当館企画室までお申し込みください。



〒605-0931 京都市東山区茶屋町527

TEL. 075-525-2473（テレホンサービス）

ホームページ <http://www.kyohaku.go.jp/>

発行日 2016年4月1日 デザイン 谷なつ子

編集・発行 京都国立博物館 印刷 野崎印刷紙業株式会社

京都国立博物館
KYOTO NATIONAL MUSEUM